

平成二十八年熊本地震後 の日本銀行の対応

▼このたびの熊本地震により被害を受けられた被災者の皆さまに對しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

金融機能の維持と 円滑な資金決済の確保

▼今回の地震発生後、日本銀行は、熊本、大分をはじめとした九州地方所在の各支店・事務所を含め、すべての本支店・事務所ので通常どおり銀行券の供給や窓口業務を行っています。また、日本銀行と金融機関等とを結び、お金のやりとりを電子的に行うコンピュータネットワークワークシステム「日銀ネット」も、正常かつ安定的に稼動しています。

▼四月十五日には、「平成二十八年熊本県熊本地方の地震に係る災害に対する金融上の措置について」を發出し、金融機関等に対し、預金通帳や印鑑等

を紛失した場合における預金等の払い戻しなどについて、状況に応じ適切な措置を講じるよう要請しました。

金融政策面での対応

▼日本銀行では、熊本地震の被災地の金融機関を対象に、復興・復興に向けた資金需要への対応を支援するため、「被災地金融機関支援オペ（平成二十八年熊本地震にかかる被災地金融機関を支援するための資金供給オペレーション）」等の措置を導入することを決定しました。これは、日本銀行から被災地の金融機関向けに、無利息で総額三千億円まで貸付けを行うという仕組みです。また、金融機関がこの仕組みで借入れをした残高の二倍の金額まで、当該金融機関が保有する日本銀行の当座預金残高に對して、マイナス金利を適用せず、ゼロ%の金利を適用することとしました（四月二十七日、二十八日の金融政策決定会合にて決定）。

大分支店 店内見学を再開

▼大分支店では、大口営繕工事のため一年間にわたり中止していた店内見学を二〇一六年三月から再開しました。

▼再開に当たり目玉になるものを作ろうと支店職員がアイデア



3Dプリンタで作製した樹脂製諭吉像。
着物は職員の手作りです



顔の立体感がリアルな
段ボール製の諭吉像



5億円分の銀行券裁断片で
作製した「府内城」

を出し合い、「銀行券裁断片で作製した府内城模型」や「3D技術を用いた福澤諭吉胸像」などのコーナーを新設しました。

▼「福澤諭吉」は大分県中津市の出身で、昭和五十九年（一九八四）から現在まで、一万円札の顔として活躍中です。中津市にある福澤諭吉記念館にも一万円札の一号券の一つが展示されています。

▼これらは地元の新聞やテレビだけでなく全国や海外でも報道されるなど大変評判を呼び、見学の問い合わせが多く寄せられています。

▼大分支店の見学お申込みについては、日銀HPの「日本銀行支店・事務所」↓「日本銀行大分支店」↓「支店見学のご案内」のコーナーをご覧ください。

決済システムフォーラムを開催

▼日本銀行は三月十七日、十八日に、本店において、「決済システムフォーラム」を開催しました。

▼情報技術革新の下で、決済サービスのイノベーションや「フィンテック」(注)と呼ばれる動きが広範にみられている中、日本銀行は今回のフォーラム開催にあたり、プレゼンターと参加者を公募しました。これには多数の応募があり、非金融企業を含め、決済やフィンテックに関わる広範な企業が集つ



フォーラムには幅広い企業が参加しました

ベントとなりました。

▼初日には、黒田東彦^{はろひこ}総裁が開会挨拶を行いました。黒田総裁は、決済イノベーションに対する日本銀行の視点などについて述べたうえで、日本銀行決済機構局内にフィンテックセンターを設立することを発表しました。その後、デジタル通貨の基盤技術である分散型元帳を金融実務に応用する上での課題など、リテール決済を巡る広範な論点について、活発な議論が行われました。

▼二日目には、桑原茂裕理事が開会挨拶を行い、決済システムの高度化に向けた日本銀行の取り組みなどについて紹介しました。続いて、大口決済システムの高度化を巡る今後の課題などについて、さまざまな意見交換が行われました。

▼当日の議事概要については、日銀HPの「決済・市場」↓「決済システムの概要」↓「決済システムフォーラム・シンポジウム」のコーナーをご覧ください。

(注)フィンテック(FinTech)とは金融(Finance)と技術(Technology)との融合を指す言葉です。新しい

情報技術の活用などを通じて、個人や企業が、借入れや送金、投資アドバイスなどの金融サービスをより便利かつ迅速に受けられるようにしたり、他のサービスと組み合わせた、より高度な金融サービスの提供を目指すものといえます。例えば、スマートフォンなどを活用した決済サービスの提供や、大量のデータを迅速に分析し、それぞれの人に合わせたサービスの提供につなげていく取り組みなどが行われています。

「日銀春休み親子見学会」の開催(「日銀夏休み親子見学会」のご案内)

▼日本銀行本店では、四月一日(金)、四日(月)の二日間にわたり、小学校四〜六年生および中学生のお子さまとその保護者の方を対象に、「春休み親子見学会」を開催しました。

▼今回の見学会には、合計八四組一八一名の皆様にご参加いただき、国の重要文化財に指定されている本店本館(旧地下金庫



発券局の職員が「お札の数え方」をレクチャーする模様

など)や現在窓口業務を行っている新館営業場をご見学いただきました。また、おこづかい帳の付け方などを通してお金の大切さについて考えていただいた他、お札に施されている偽造防止技術の紹介、一億円の重さ体験やお札の数え方体験などの学習プログラムを通じて、皆様には日銀やお金について楽しみながら学んでいただきました。

▼毎回好評をいただいております親子見学会の次回の開催は、夏休み期間中の八月一日(月)〜五日(金)を予定しています。▼「日銀って何をしているところ?」というお子さまの好奇心にお応えできるようプログラ

編集後記

■平成 28 年熊本地震により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。(編集一同)

■5月30日をもって情報サービス局長を退任し、本号の編集が編集長としての最後の仕事となりました。ご愛読いただき、ありがとうございました。日本銀行の仕事やそこで働く役職員の姿をわかりやすくお伝えしたいと考えて編集に努めてきましたが、いかがだったでしょうか。また、全国の支店を通じて地域の皆様方も触れ合いを持たせて頂いている点もお伝えしたかったことの一つです。今後とも、日銀と「にちぎん」を宜しくお願い致します。(高橋)

■このたび編集長に就任しました。日本銀行で様々な仕事をして33年目となりますが、広報誌「にちぎん」の仕事に携わるのは初めてです。これまでの経験を生かして、読者の皆様に、日本銀行の活動を面白く、わかりやすく紹介していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。(鶴海)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文を PDF ファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2016 年夏号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC 認証紙を使用しています。

「第二回 日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 論文募集中

応募締切：九月三十日(金)
▼「日銀グランプリ」は、日本銀行の金融教育充実に向けた取り組みの一つとして、学生の皆さんを対象に毎年開催

ムをご用意しております。
▼参加は無料です。お申し込み方法などの詳細は日銀HPにてご案内いたします。皆さまの卓越しを心よりお待ちしております。

していただきます。今年度も応募論文の受付を開始しました。
▼テーマは「わが国の金融への提言」。わが国の金融に関するものであれば、どのように

設定していただいても構いません。多くの学生の皆さんからの斬新な提言をお待ちしています！
▼日銀HPに専用コーナーを

設け、概要、過去の決勝参加チームの作品全文および審査員講評等を紹介しています。



【親子見学会・日銀グランプリのお問い合わせ先】
日本銀行情報サービス局
総務企画グループ
〇三—三二七七一—二四〇五

【訂正】

四五号(三月二十五日発行)の「貨幣の世界」の一部に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

■二ページ 写真2
(誤) リュディア王国(紀元前7〜6世紀)のエレクトロン金貨
(正) リュディア王国(紀元前7〜6世紀)のエレクトロン金貨